

1976-09-01 (115)

Skardu 7

①①①②

5月10日に日本を出発してからもうすぐ4ヶ月目早いものである。  
9月10日前後には日本へ帰国しなければならぬ事となったが、  
これもまあ登頂者という事でしかたがない事である。

平井隊長、Capt. と DC. へ行く。用件は Ramazan がシゴールの  
ホリスに支給品(靴、ヒョウケル、Rs100-) をまきあげられた件に関する  
告発と jeep 代の件に関する事。 Ramazan の一件は 2 日以内  
に Ramazan のもとに品物で金を返すと約束。 jeep 代の return  
half については適用期日が尚問題で 明日までに調べておく  
との事である。 オースでとゆうまい黄桃をごちそうになる。平井先生  
はたぬをさっそくホリス袋に収めていた。 airport の先のカフェで  
できるらしい。バザールには売っていないものだ。この地方の Additional  
Political Agents の時代から代々の役人の名が壁に列記されて  
いたのでメモにしておく。 Post Office へ行くも Pindli から送付  
されて Khapla へ行く様になっているとかで 手紙を受け取る事は  
できなかった。

朝、フルディニアがようやく一便やってくる。ドイツの 5 人組もやとヒンディ  
へ帰る事ができた様だ。我々の着がきわめてくるのは、いつの事やら。

今日は平井先生が食当。記録すべき事。

朝食... フラタ、オムレツ、パン、アイス。

昼食... マル、マダ、2/3 head、キャベツと玉ねぎ、ポテト、トマト。

夕食... せんか、(ル、ヒョウケル、おたし、キャベツ、パン、アイス)。

但し広尾君が assistant として転って来ました。

いよいよと、買出しに行って、野菜も切るとよく働きます。

ドイツ隊の残りがバヒロから帰ってくる。ポインのネーファンが、いつか  
Capt. とバザールの 2 区の間をカマイがさっそく出てきて、それを  
何やらやっています。(C-30、フルディニア各一便)。

1976-09-02 (116)

Skardu 8

②②②②

食当、木本、予定は P.I. A Office に行って、現状説明を受ける  
事と DC. にて Meeting の記録 Copy をもらう事。

昨日一週間ぶりに 2 便飛んで来た今日は悪天、ほんとうに  
P.I. A はヒンディニア、インシ、マッラーである。我々もどうも一週間由  
休んだ事になる。皆ひまを持てあまして、花札、しょうぎ、にるみ子  
ちゃんの手紙を聞くじらいが日課をたいした事もない。  
バザールが一冗長があって、バザールへ行ったりとなり近所の  
ドイツ娘や菜人やらの話にひまをつぶしている。バザール  
へ行って遊んでくれているうちは静かだ。それに今日はおい  
ごうさんに昼飯をしてくれ、ちよかい虫もな、と一日休養とい  
たところである。

L.D. と P.I. A. に行き、次の C-130 で荷物と、全員を運ぶ  
か、トラックで隊員だけ運ぶかどちらかの case について  
confirm してしる。しかし天気の方はすいぶん悪くお、  
きた様で、昼からは雨までパラツキ出した。ちよとでも  
電があれば飛べないのだからましてや雨の降る様な天気  
では、全くためた。

Post Office へ行って英世尾へ手紙を出す。我々への手紙  
は Khapla へ直送されているとかで、Capt. が Khapla へ返  
送依頼の手紙を送る。花札は今日はだめ。

昼からるみ子ちゃんのテープから歌詩の書き出しをやった。  
え。バザールで、買った電池は、半日でもうダウン寸前  
になってきた。夕方、2 名の Tourist が ヒアワ水河から帰  
ってくる。バヒロからトラックの L.D. に追いつかされたらしい。

1976-09-03 (117) Skardu 9



昨夜は少し頭が重かったので9時頃にはおねてしまった。涼しくて  
 良くねむれ今朝は8時前までぐらすり睡眠がとれた。今日は  
 居谷が食事当番。彼はチャイナで買ったアラクをNamanに  
 おねめさして朝食にしてやる。味の良いうアラクだった。  
 朝からはぼしぼしと雨。珍しい事だ。しかし、喜んでいいかい？  
 Pindiはますます遠くなりになり、9日頃も滞在している事にな  
 る。クリスマスまでには帰国できるだろうなどというjokeが  
 西ドイツの連中から出てくる。L.O.も頼みによって、もう一度Exp.  
 をやて山へ行ってきたらどうか。

Capt.とD.C.ハ. jeep代の件について、確認に行く。6/12 Meeting  
 があつたそうでその日からReturnがHalfになったと記録に  
 いる。したがって約4000ルピーは帰ってこない。Rs4000 あたり何  
 でもできると思うのだが、特にヒンディービルがたふりのあると...  
 Ayazが出発の時我々をせかして、6/11 出発させたあたりにも  
 何か臭いところがありそう。

昼頃 どんぐりおさしの残りや学務院の残りがjeepで Rest House  
 着。雨がほそほそと降る。続々とExp.が帰ってくるが、P.I.A.の方はた  
 まり、はなしというところ。一昨年は、今日、C130がやてきてPindiへ  
 帰着く事ができた。バニル君がPark Hotelで待っていて  
 くれる事であろう。緒方. telegram 打つ 次の便にてPindiへ  
 昼食は居谷君のエッグフライドライスと野菜汁。お茶うけにケーキ  
 ーetc. 毎日、物な食事をしている感じ。

夕食後ドリッ娘から先生がふと歌の本を借りてきて、居谷の指導で  
 Sprung Leven といのを憶える。さて明日の朝はなにも  
 歌えるかどうかこれは内題だけにと。みるちゃんの方も裏面を広げと  
 書き出して、練習する。Namanに電池を買いにいってもらう。4つRs 16-

1976-09-04 (118) Skardu 10



食当. 広石君。3日夜。チャイナにアラクを買いに走る。  
 フライト待ち10日。6:30起床。ホンに行く。快適なり。それにしても  
 今日で10日由スカルドでじっとしているわけだ。

今日の仕事は、行動記録を書き事。登山中のものから整理仕事に  
 した。7/23 じ建設までを書いたが用紙も finish. あとは帰国にか  
 らいう事になろう。

今日もフライトはなし。Capt. が阪大の方が先にBookingし  
 たとの情報を得て帰ってくる。我々が空港にいないからこういう  
 事になったのだと言うが、何のためにスカルドのニューバザールにオ  
 フイスを、それもBooking Officeを用いているのか。単にP.I.A.  
 のレベルさに原因はいる。

夕方からP.I.A.のマネジャー 千石氏宅へ押しかけて、クレームをつ  
 ける。彼は、ミカじどうかしらないが、もうホーティングカードを発行し  
 てしまった後であるので、今から変更はできないと言う。我々が  
 サードフライトというのは何事かと、詰めよったところセカンドフラ  
 イトの約束だけはとりつけた。Doctorと木本が、いっしょについて  
 きてくれる。チャイナでjeepをRs2000-でチャーター。帰路  
 空港の阪大Partyのところに行つて事情を聞く。

明日はとにかく又便の予定があるとの事で、朝早く空港へ  
 移動する事にした。P.I.A.のマネジャー宅へ行ったjeepに  
 明朝又回往復する様5時にRest Houseへ来いと言  
 っておく。夕方から天気も良くなってきて、明日はきっとフライト  
 があるだろうと、期待しつつぬる。

居谷が腹まくしにかかると。危いところでDoctorもかなり真剣に  
 トリートしていた。ope. の一歩年前というところ。

1976-09-05 (119) Skardu → Airport ①①①①

6:00 Rest House start 7:45 2便目 jeep airport 着  
4:00 起床. Room を整理. 井上. 緒方の食当。(昼は緒方夜井上)

空港にて. P.I.A. のマネジャー

と. Booking Office のユーリフ

を交えて 事業関係について.

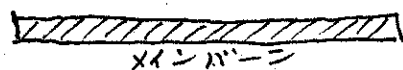
話し合う. 阪大の L.O. が 4/24

に. Khaplu から電話で予約し

た等という裏筋なうそを言い出して. 我が隊の L.O. もおこり出す.  
ヤケンガクガク. 口ぎたなく. 悪口を言ったが 結局. 一担ポ  
ディングカードをにぎった方が勝ちで. 彼等の荷物が先に  
チェックインされた. 我々はセカンドフライトという事になっ  
った. 阪大の L.O. は全くのウソである.

さて. イヤポートの裏山側には. 大きな泉が湧き出して  
て. ちよとした小さな谷と緑地を作り出している. 水車小屋が  
あって. マダをひいている. マダマの養はくもやっている. 泉は岩  
のふもとから湧き出しているが水量が少く. 幅 4m 深 1m 程  
の川を作って. 小さな谷を流れている. キャンプ. サイトとしては  
絶好の場所だ. フライトは 2便ともキャンセルされ. 結局こ  
こには. 阪大. 学修院. おさし. とうちの 4 隊がテント村を作  
っている. P.I.A. の職員がアルバイトで用園きをして. 必要な食  
料やラグリの牛配もしてくれ. 町の Rest House よりもずっと.  
快適な生活がおくれる. 早くここへ移った方が良かったとい  
うのが皆の意見. 但し Khaplu では皆直接ここへ来るのはいや  
がっていた.

この泉の水温は. 11°C でそんなに冷たいという程ではな  
い. しかし. 純た水というのは何と云っても良いものだ.



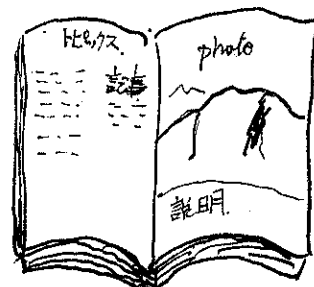
1976-09-06 (120) Skardu (Airport) ①①①①

6:00. 食当の岩は. Hassan と テントの下でわいていたが. 6:00 には  
食事の準備もできて. 我々を起してくれ. フラットの朝食. マ  
ジムが フラットに良く合う. 天気はあまり良いとは言えず. 風邪先  
味だったので. 食後 ホンをしてから一歩りする.

10:30 フッカーが来て. 阪大は Pindi へ帰っていった.  
やと我々の順番が回ってきたわけである. 但し今日は一便  
だけ. 5日ぶりのフライトだから次は 11日頃か? 明日は. 祭日  
で. フッカー便は予定があるが. C-130 は. 飛ばさないであろう.  
登山許可は昨日まで. Capt. は. 自らの保険が 2/3 で切れているを気  
にしている. そんなもの知るかい. というところで. 気にもかけない.  
昨夜は. 平井先生と同テント. 報告書のスタイルについて話し合う.

PM 1:00 P.I.A. の空港 office へ  
行き. 明日の flight information  
を得る. 他隊に再度 先を越さ  
れない様 PM 3:00 に 木本にお  
戻り. 16シート確保  
してあったので. しゃどんぶり隊の  
ものではと... どうも P.I.A. を言  
め. 10キスタン人達は. 信頼できない. 今回の遠征では. ス  
Pakistan というやつに. いや気がしてきた. 日本人 (外人) と  
見たら. 10イサと思え. といったところか?

夕方. マチを買って. 塩焼きにする. 焼き火をかんで. Doctor  
太郎. 居谷. バラチーフ. 等と話し合う. やは. 焼き火はいい  
ものだ. Doctor の女のくどき方. これは. 一理あって. 皆なる  
ほど... と感心.



1976-09-07 (121) Skardu to Rawalpindi ①①①①

5:15 起床。昨日は平井先生と2人でテントに入っていたので少し寒かったが今日はつる谷さんとバラサーブにはさまれて暖かい一夜だった。地面の冷たさもさほど気にならなかった。

6:00 本村と2人で P.I.A Office へ。Booking を済ませる。Hassan の Booking で少しもめるが、押しの一本で三十をとる。そのうち flight がこちらにやってくる事を知りあわててキャンパスにもどり荷作り。わいのわいのとやっているとすじ進しきで focher 27 がやってくる。ATC に行つて (Capt. と) 4分ほどで着くという事を知る。

非常にエキサイティングな事に今日とべたわけだ。阪大にはいつもしてやられる感じで長分が悪い。今後は一さい協力しない決意。

昨夜は雨まで降って今日のフライトはあまり期待しなかったが、良い天気。インダス川、チカボ、ハラモ、マルビティン、ティラン etc. が右岸。左岸はナカカパルバット。良く見えた。200mm レンズと Kodakolor-II であまりクリアではなかったが window から photo 一本。なつかしいカメラや Jaglote 等も良く見えていた。インダスの道はやはり厳しい。マルビティンの近くでは、低空飛行をやつて我々にははらはらし通し。無事 Islamabad Air Port に着。緑多く、活気あふい。車もきいいて、文明社会へ帰ってきたという実感。

Park Hotel へ。7コンテナ。Rs 48-(12 Member), ホール Rs 5x4 = Rs 20-, Hotel men と、再会を喜び合う。パキシルもさっと我々の世話にはりきつてくれる。(21:00) 昼は、御の食堂にて、スナック、リザーブをあけて、カンパイ Meeting もす。

小生には手紙多数。英世兄より、週刊誌と文芸春秋計4冊がとどき、ありがとう。母の手紙も数通。

(Meetingにて仕事分担決定)

1. 9月7日以後日程表。
2. 日本大使館行き 9/7 (平井、田中)
3. P.I.A. Office 行き 9/7 (本村)
4. 隊荷引取り。(緒方)
5. 日本領事館 (緒方、石)
6. 帰国日程。隊員旅行予定
7. Tourism Division 出頭 (平井、中、Capt.) 9/8 pm 1:00
8. おみやげ買。(鶴谷)
9. 報告書の件。
10. Telegram (石)。REACHED RAWALPINDI ON 7th.
11. 会計。(中村)
12. Post Office (石)
13. 衣装の整理。

\* 居右の腹暮は、今日も再発。Parise へ行きたがっているが、全てトランスポート係を押し、Karach まで Doct. と行儀か。Doctor 3 決定に依りさせる。

履倉前に、以上決定。昼から Embassy へ平井、田中、手紙をたくさん持ち帰る。岩家からも一通直代姉からも一通。母の手紙は日記式だから日付通り並べてホキキスで止めてかう読む。毎日、気苦痛の多い8日だった様だ。ゴキネ、カーテン、本、P.I.A より flight time table を入手。皆帰国日程を思案。ハラサーブとユニサーブ。期限も近くなり、心算してなかなか決まらず。Hassan は Doctor と Lahore へ行く事になって、Hotel で夕飯もいっしょにする。Capt. 電卓 Rs 250 - 元口 Rs 650 で購

1976-09-08 (122) Rawalpindi ①①①①

Debriefing at Tourism Division (平井, 井上, Capt. Asad)

pm 1:00 から Islamabad の office にて.

Mr. Awan, 及びの Hussain Mujaffar-Ud-Din が集まり、いろいろと質問あり。聞かされた事は、Rawalpindi への到着日、出発日、帰着日、登頂日、登頂者、キャラバンの行程等であった。平井先生のタイドした報告書についても、水-9-の問題について、特に詳しく報告しておく。我々の総費用が #600,000- である事をきき、これを我々の14キスタン滞在日数で割ると約 \$50/day/person となるそうだが、おもしろい計算方法であり、参考にしてみたい。来年は \$600-/day となるであろうとの事。その他の complainment としては、jeep 代の件と、阪大の Skardu での Booking に不正があった事を伝えておく。L.O. については、給金の支払いについて、問題はなされたかどうか、BC にちゃんとしたかどうか等であった。あと、exposed film の certificate と Resisteration, export permission の件が残った。明日、それも終了する。

夜は京大の 井上二郎氏, Capt. を加えて12名で、イン-コンネクトホテルにて夕食。ビールが特にうまかった。二郎氏は再びネパールへ出張中だそうで、暇をみつけて、14キスタンへやってきたとの事である。Ramzan の Pakistan は、一流ホテルさん dinner が pm 7:30 にならぬといふとでない。C130 は今日も Skardu へは行ってこれなかった。しかし、学修院 Party も今日は Pindi へ帰ってきた。Park Hotel は日本人に乗取られた模様のものである。

P.I.A の time table 入手 (林)。平井先生、お水と水と日程検討されるも、決りつかない様子。ゆきよ、明日に決定持ちこしてある。

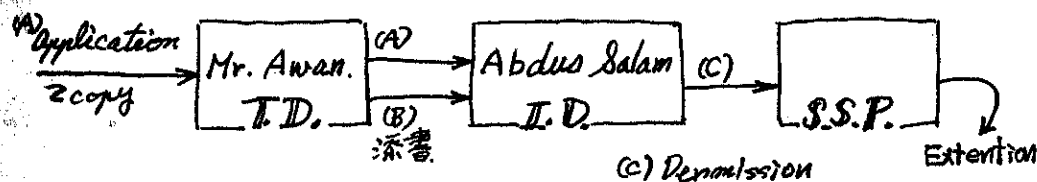
1976-09-09 (123) Rawalpindi 〇〇〇〇

今日は良い天気。今日は Visa の延長。緒方をつれて行く事にする。

am 10:00 Tourism Division Mr. Awan 氏を尋ねる。

1. Certificate of films 1 copy をもらう。(済)
2. Export について。(これは入国時の Awan の許可書が有効)
3. Resisteration extention

用件はこの3件。使用済フィルムについての certificate はすぐに済む。荷物の返送に関しては入国時のものをうまく使用すれば良いとの事で、これも問題はない。Resisteration については次の通りのルートで処理する。



Mr. Abdus Salam Section Officer (Interior Division)  
Tel. 21287 R-block, Islamabad

省名: Ministry of Interior, States & Frontier Regions & Kashmir Affairs (Home Department)

Mr. Abdus Raza ... Embassy in Tokyo にいるカズン  
Mr. Awan へ提出した書類は、天候の悪いため、スカルドへは帰ってきたが flight was not available for us, so we could not come back to Rawalpindi before 5th. Sept. Please extend our staying in Pakistan upto 20th for 8 persons & upto 30th for 2 persons. ... という内容を、小生名で申請。アグド、サラム氏が permission letter を作、これと水とを2通もらって、一通は再び Awan 氏に提出、もう一通は Resisteration

certificate を持て SSP へ行く。Rawalpindi の場合は、  
The Senior Superintendent of Police, And Foreign-  
ner's Registration Officer, Rawalpindi.  
ここに行って、延長をね。安外スムーズに終了した。どの国でも  
役所というのは全く同じだろうが、今日もたらいまわりの一日であった。  
明日、Pindi を出発する報告書を提出すれば、渉外関係の仕事は終了である。

夕食は本本のインジでインターコンチネンタルにて、ガーデン  
Party, ビール、ウイスキー、肉。(カレー、ナン、チカ、セーフ etc.) とでも  
おいしかった。明日からの計画決定や、バラサーブのスピーチ、Capt.  
のスピーチ etc. けっこうたのしいガーデンパーティでした。明日は  
Doctor 達も Lahore へ出発するし、今日は解散、Party にもあった。

帰国のため精算。帰国用におづかいは中村尼から次の通り  
返払いしてもらおう。Rs 500 - Travelers check # 900 -  
なる岩。田中は、みやげ物の手配。インターコンチの Kashmir shop  
でいろんなものを置っていた。

1976-09-10 (12%) Rawalpindi ○○○○  
一大失敗のまき。SSP の係官、Pindi 出発報告の用紙を  
持っていったところ、Passport と Registration Certificate を  
見せろと言う。緒方、広石と3人で Swat の係の手配をしよう  
と元氣を出して Park Hotel を出てきたのに、出鼻をくじかれた  
感じである。田中、岡本、鶴谷の3名は、ラホールへもう行って  
しまったし、この Hotel に泊るのやめからないし、困ってしまう。  
とりあえず Park Hotel へ引き返して、残りの連中の Passport  
を集めて出直す。今度は小生一人でねばって、application  
を書いたり、お水に水言ひ分けを言ったり、とうとう7人目をつか  
まして、travel permit という紙切れを舟に入れて、この  
国はややこしくて、これがないと、出国できないそうだ。  
SSP のにやけ係官も昨日の不心切さのため、こうなったと  
いう事を知らずか知らずか2時間もかかて、終了。  
平井先生は広石と銀行に Rs を換金に行く。小生は、レ  
ジストレーションを済ませてからサタールの PIA office へ、16日  
へキン、三ヤンハイ週りの Booking に行く。我々のチケットは Pindi  
東京とまっているので No change でカラまでの便にも乗れ  
る。今朝の News で毛主席が死亡という事で、PIA の北京  
便は満員かもしれない。係員も、再度 check してくれという事  
だった。

中村尼は、会計の整理にこの3日程 Park Hotel から出られない。  
小生もみやげ物を買って歩き始める。バニール君の紹介で一人  
おもしろいホッカン(岐阜大のヒンス-7 シュにフリーだったやつ)  
が、カミール クロスを持ってきたので、物食する。

カミールドレスの生地、2着分 Rs 450 - 電卓と、Rs 100 程度の  
ニールとも交換、#70 のチュータンも入れて買え、お水も物。

夜 7:30 から 根本大使の公邸にて。夕食会。広石がサタールバザールからミニバスを Rs 80- にてチャーター。学修院、阪大、神大の3隊がまねかれる。何といっても、17人7名込んだらキョーク。大使の家は Embassy Road の87あたり。立派な家。出し物は、キリンビールにスコッチ。サケがのみもので。料理は、日本風の干キノコ、ステーキ、炒め物、トーフの揚げ物、エビの天ぷら、ナスの揚げ物、卵焼、97マン、etc. 大皿に2回とたらさすのに満腹だった。

本部に Telegram. ACKU KOBE. 17TH REACH TOKYO HIRAI INOUE. Rs 33.66-

英世兄に Telegram. 17TH REACH TOKYO TATSUO Rs 47.30

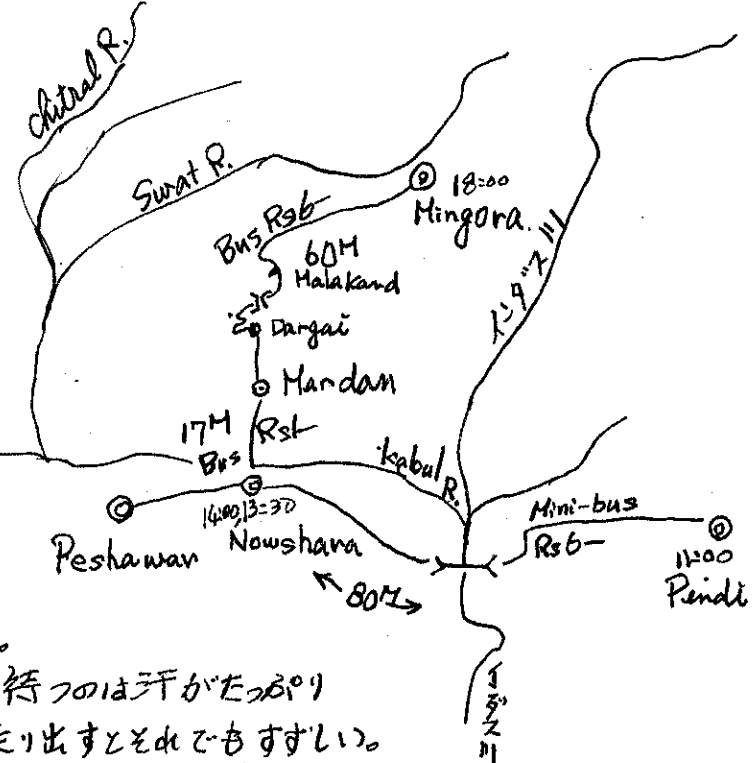
P.I.A. の Booking confirmation は、Tel おも 要領悪く、通じずじまい。

# a Journey to Swat

1976-09-11 (w5) Rawalpindi → Mingora ①①①①

7:00 起床。朝食。中村、木本、Lahore へ向け出発。木本は有広着用。intercontinental にでもとまるのか。平井先生、毛の死で、八時に行きは満員じゃろうと、いび配する。朝食後、御自身で P.I.A. に Tel. する。井上、よくわからぬが、た、やり直して水へんか？。小生すると、O.K. の事。さっそく confirm chicket をもらいに P.I.A. Office へ行くと、これにて計画通り、Swat へ入る事ができる。帰国用の荷物と整理。Doctor Party への伝言をバザールにたくし、サタールで出発する。

Member  
井上、緒方、広石、  
Amitko Pindic 発  
ミニバスワラに95  
いおたさなあた  
とこ3. 他客が  
おいていまい事  
になたのかい  
とくもぬ出して  
出発がおくぬる。  
明日は久しぶりに  
暑くぬたヒンタイ。



ミニバスの中で、持つのは汗がたっぶり。出てヒュー、走り出すとそれでもすすしい。Nowshara までは、何度も通った道で、さほど見たいと思つものもなぬたが、インダス川だけは何度も見ても良いものだ。ミニバスの客の定員は12名ほど。50MPH が平均速度。ちこう早く走る。Nowshara は、代り

ス軍の基地のあたりに、そのせいか今もイリス風の庭のきれいな家が  
たくさんある。十字路のところでバスをおりて、一歩、マングールジュース  
とセブを買って食べる。これが昼食になってしまった。(Nowsheraは、)  
シヤと発音する様だ。ベンチがおいてある広場の木かげにいたラ  
ブさま人種ができてしまう。どこに行っても外国人は珍らしい  
者の様だ。Ramazan中なので我々が飲食しているのをとが  
める様な目つきを見る。

MardanまでRst、バスは粒の中や、サトウキビ畑の中を走る。  
Kabul川をわたって、鉄道もここ奥まで入っている。Mardanでミン  
ゴラ行のバスに乗りかえて再び北へ向う。かんがい用水、ダム  
のある所から峠の登りにかかる。400~500mほど登って、200~200  
mほど下るとSwat谷に入った。谷一面が緑に包まれて、山にも上  
の方は木があり、豊かな谷である事がはきりしている。スカルドか  
ら、Khapluにかけてのパキスタン風景とは全くちがう、日本の田舎  
の様な感じである。

Mingoraの午前で500頃に客も、運ちゃんも、木、西の  
の山に向って、うしろから写真をとっておく。

Mingoraは緑に包まれたSwatの州都。山の午には  
白いモスクや城があり、予想以上に大きな町でびっくりし  
てしまう。町中のAkashind Hotelに入る。一夜Rs30-(昼)  
Ghuram Rasoolが支配人。Ramazanがあげのものを待ちかか  
る様にして、ナン、ミンチと佐の蒸に3かしの夕食。食後3人で散歩  
ミニバスをRs60でKalamまでチャーター。明日6:00にHotel  
に来る様伝えておく。アイスクリム屋がいて、ソフトクリムを食べる。  
イタリア製のソフトクリム製造機をもっていた。甘いカルブサを  
Rs80で買う。半分食べてしまった。シヤブが発持良い。

## Sherpi Kangri 登頂記 1976-08-10

見通す限り雲一つない好天。風は少しあった。朝は良く冷えて  
4:00で-16°Cであった。C3の小さな青いテントは、三エルの  
肩にへばりついていて、感じて、緒方とたった二人、この天上の世  
界に一夜を過すという事は我人生にてたった一度味ねる  
チャンスかもしれない。

オシキャンポ建設までは実に長い闘いであった。西稜にルト  
を決定し、西稜取付きから氷壁となり、P9突破まで、頂上  
への見通しは、たっていない。6500m以上で行進した隊員が  
田中、井上、緒方、居谷、木本の5人だけという段階で、7月末の  
悪天に会い、A、B、Cまで下降して休養せざるを得なかった事  
を思えば、C3に2名が入った事は、実に大きな出来事の様  
に思われしかたがない。C2からP8台地までしか進めなかった  
8月8日は、気分も決して頂上への道に、一抹の不安すら抱いた  
が、9日、良い天気の中、順調にルト工作も進んで6800mに  
C3建設を完了した時は、何も考える必要がなかった。天  
命を待つのみといったところだった。

9日、2時半、最終サボ隊の田中、木本、居谷、広石の4名は、ルト  
が完成した後、C2へ下っていった。田中副隊長の消耗が、今日  
の荷上げのきつさが良くわかった。テント内を整理し、まず蒸  
もと言う事で、このキャンポのみ使用する事となった。テントで紅  
茶を作った。湯が低いせい、薄いつパイに作ったが、とことうまい。  
疲れが、様登ってきたつもりだが、ガール登攀用具、何人若備  
を持つてのルト工作はやはりきつかった。二人とも、高度の影響  
はあまり受けていないが、やはり疲れは大きい。夕食をとり、  
アイヤ、デザートを食べ、元氣も回復した様であった。  
pmb200の交信にて、明日のマルクは朝からトランシーバーをON